

2017年1月6日

社長年頭あいさつ（要旨）

トヨタ車体株式会社では、1月6日（金）11時10分よりトヨタ車体健保会館で辞令交付式を行いました。この中で、取締役社長 増井 敬二から社員に向けた年頭のあいさつの要旨は以下のとおりです。

世界各地の生活を支え続ける「もっといいクルマづくり」に向けて、変革にチャレンジし、世界を相手に仕事をしよう！

自動車産業は今、急激な変革の波が押し寄せています。当社も厳しい環境変化に対応していくためには、一人ひとりが意識を変え、危機感を持って新たな仕事の仕方にチャレンジしなければなりません。変革にチャレンジすると同時に、足元をしっかりと固めていくことも大切です。足元固めに向けて、当社が今年取り組むべき3つの重点課題についてお話しします。

■今年の重点課題

1. 領域拡大への取り組み

アッパーボディーからシャシーも含めたクルマ全体をつくり切れる会社になり、さらには企画の領域にも参画し、商品企画から生産まで担える会社にならなければなりません。目指す姿の実現に向けて、実際のプロジェクトで経験を積みながら、さらに力をつけて開発のやり方そのものを変えていくことが大切です。次期商用車開発に向けて、商品企画の領域まで踏み込んだ開発にするための組織を新設しました。当社が主体的にプロジェクトを推進していくことによって、先行企画開発の力をしっかりと身につけ、車両の企画段階から参画できるようにしていきましょう。

2. グローバル事業展開

これまで国内やアジア地域を中心に事業を展開してきましたが、これからは、新たな地域へのKD*事業や特装事業の拡大に加え、トヨタの海外事業体の支援も含めて、世界中のお客様にもっといいクルマをお届けするために、グローバルに仕事に取り組んでいかなければなりません。活動の領域がグローバルに広がることに対し、さらなるグローバル人材の育成が必要です。今後は、計画的な育成、活躍の場づくりを進めていきますが、社員の皆さんも積極的に海外に出て大きく成長して欲しいと思います。

KD:knock down

3. モノづくり力の強化

まずは24年ぶり、CV Company*として初めてのモデルチェンジとなる新型コースターを、岐阜車体工業で確実に立ち上げなければなりません。吉原工場と岐阜車体工業が手と手を取り合って、盤石な立ち上がりに向けて取り組んで欲しいと思います。いなべ工場では、商用車の特徴を活かした競争力ある造り方改革に取り組んでいます。今後、各工場でも競争力強化に向けた工場改装に順次取り組んでいくとともに、今年から来年にかけて続くプロジェクトに対して、総力を挙げて取り組んでいきましょう。

CV Company:バン、トラック、SUV、ミニバン、福祉車両など「世界各地の生活を支え続けるクルマ」を担当するトヨタ自動車の社内カンパニー

最後に、今年の干支は酉です。大空にはばたく鳥のごとく、活躍の舞台をグローバルに広げ、世界を相手に仕事をしましょう。

世界中のくらしに笑顔と感動をお届けする”もっといいクルマづくり”

